村民のみなさんとともに歩み 広報よこごし 創刊200号に

村の情勢や地域の話題など、皆さんのご家庭にさまざまな情報を届けてきた「広報よこごし」が、今月号で二〇〇号を迎えました。
昭和四十七年六月の創刊以来、十六年九カ月の間、村民の皆さんと村政を結ぶパイプ役として発行を続けてきました。
今月号では、二〇〇号を迎えた広報のあゆみをおってみました。

〝村の記録をつづって十六年九カ月〟

昭和四十七年六月に創刊

「広報よこごし」は、昭和四十七年六月、情報化社会が高まるなか、それまで〝村だより〟と〝公民館報〟が、役場と公民館でそれぞれ発行されていたものを、行政広報紙としての充実を目ざして一本化。毎月一回、タブロイド判というスタイルで創刊され、編集も創刊当時から昭和五十五年六月までは、総務課と公民館で行ってきました。

一〇一号からA4判に 読みやすく保存しやすく

昭和五十五年七月、広報活動の充実を目ざし機構改革のなかで、担当が企画調整課に移りました。

この年、新体制での有線放送開局による定時、毎日放送が開始されたことによって、「広報よこごし」も、記録性、解説性に重点をおくと同時に、紙面も見やすく、読みやすく、保存しやすい広報ということで、十二月の一〇一号からスタイルを変更。タブロイド判からA4判に改められました。

その後、昭和六十年七月からは担当が総務課に移りましたが、広報は村の記録として、その時々の出来事だけでなく、村の情勢、地域の話題など、村の歴史そのものを綴ってきています。

これからも、皆さんに愛され親しまれる広報を目ざして、内容を充実させていくとともに、皆さんと村政をつなぐパイプ役の役割を今後一層強めていきたいと考えています。

こんなことがありました

広報よこごし 47年～63年

主なできごと

（昭和51年5月1日発行の広報より）

四十七年　○統合小学校用地買収。
四十八年　○農業共済事業の果樹共済が発足。○新潟地区広域清掃組合の舞平し尿処理場が完成。○村推奨の木、まつ、うめ、さつき、もみじ、さざんかに決定。
四十九年　○広域共同防除事業が始まる。○村商工会が発足。○統合小学校校舎が完成。
五十年　○「高野槇」を村文化財に指定。
五十一年　○統合横越小学校が開校。○農村総合整備モデル事業がスタート。○「建部尚行顕彰碑」と日枝神社の「大幟」を村文化財に指定。
五十二年　○沢海地区野菜集出荷場が完成。
五十三年　○中央保育園の新園舎が完成。○新潟市と共同の阿賀野川浄水場通水式。○六・二二六水害に襲われる。○横越上集落開発センターが完成。
五十四年　○横雲橋の歩道橋が完成。○公共下水道事業に着手。○「頂像画」を村文化財に指定。
五十五年　○村政懇談会がスタート。○新体制による有線放送が開局。○焼山地区集落開発センター、藤山会館が完成。
五十六年　○茨城県美浦村と姉妹村盟約書に調印。○双葉保育園の新園舎が完成。○合村八十周年式典を挙行。○村民憲章を制定。○藤駒農村公園、ことぶき公園が完成。
五十七年　○横越小学校増築校舎が完成。
五十八年　○農村環境改善センターが完成。○議員定数二十二人を十八人に削減。○むし歯半減治療100％運動がスタート。
五十九年　○美浦村との中学生交歓会がはじまる。○「なんでも相談室」を開設。公共下水道一部地区で供用を開始。○小阿賀橋、商工会館が完成。
六十年　○村総合計画基本構想を策定。○役場新庁舎が完成。○小杉保育園の新園舎が完成。○「交通安全の村」を宣言。○横越農村公園が完成。
六十一年　○小杉地区コミュニティセンターが完成。○野菜予冷・貯蔵施設が完成。○木津農村公園が完成。
六十二年　○小杉農村公園が完成。○籾乾燥調製施設、木津構造改善センターが完成。○「青色申告・振替納税の村」を宣言。
六十三年　○農業共済事業の広域合併予備覚書に調印。○交通安全指導隊が発足。○小杉八幡宮の「幟」を村文化財に指定。○新田地区コミュニティセンター、駒込会館が完成。○向こう三軒両隣ニコニコ健康づくり事業がスタート。○老人福祉センター、デイ・サービスセンター、横越中学校増築校舎建設、木津工業団地造成に着手。

写真で村の自然の紹介を

本間一人さん（横越）

私が村内を回っていると、都市化の波がおしよせ、村の様子も大きく変わってきているのが目につきます。

この変わりゆく村の姿を保存するためにも写真のシリーズで紹介したり、まだ村内に残っている動植物など自然の情報を、その時々の季節感あふれる写真で村民に紹介するコーナーがあると、より一層親しみが持てる広報になると思います。

多くの村民が登場する広報に

田村千津さん（小杉）

「広報よこごし」が配布されてくると、知っている人が載っているか興味を持って読んでいます。

村の情報源として役立っています。写真も豊富で感じもいいですね。

できれば、各地域のいろんな人を紹介するインタビューコーナーなどを設け、たくさんの村民が登場する親しみやすい広報であってほしいですね。

身近な暮らしの情報を

岡田なを江さん（木津）

家族みんなでいつも読んでいます。

村で生活改善などの事業を行っていますが、講習会などの参加が少ないものもあります。身近な暮らしに役立つものですので、これらの活動内容をもっときめ細かに紹介してほしいと思います。

また、サークル活動や住民の方の文芸、趣味などを紹介するコーナーがあったほうがいいと思います。

二〇〇号に当たって 心のネットワークの役割を

横越村助役　佐藤昭衛

高度情報化時代のなかで、村の広報の果す役割は何か。本当に必要とされている広報なのか。と自問自答しています。

表紙の写真を見る限りでは毎号どんなものが登場するか、興味と期待を誘っているが、中味は二十年前とちっとも変ってない〝マンネリ〟の感もあり一月号は何々、四月号は何々と、大概のところ察しがつき期待も感動も涌かない。大方こんな風に思われているのでは、とも思います。

日刊新聞が突然止ったら或いは見ることができなかったら大部分の人は、情報に疎くなるような気がするのは自他ともに認めるところであります。

村の広報もこの比であろうか。象と猫の角力みたいで論議のしようもない。かもしれませんが、心を揺さぶり人を動かすものがなければ、魅力が乏しくなるのは当然であります。

新聞も広報（機関紙）も個性がなくてはならない。広報は機関紙である以上、一定の限界、パターン化はやむを得ないにしても、より多くの人々が登場し、生き生きとした心が伝わってくる〝心のネットワークの役割も果さなければならないのでは、と痛感しております。

平成元年を迎えて横越村は、内外の話題性に包まれて歩幅を大きく踏み出そうとしています。

県下の先端を切ってオープンする老人福祉センター。工業団地造成と企業誘致、併せて地場商工業・観光の振興を画す機構の独立。横雲バイパスの本格着工。至近距離となった人口一万人等々。それに国中の話題である〝ふるさと創生資金一億円〟。どのようになるのか、問題はないのかなど、村民の皆さんと一緒に考え、大いに論議を高める情報サービスは広報の一大使命でもあります。

二百号を記念してお寄せ頂いた有難いご意見に十分心して、より分り易さを、より感動を、より気品をモットーに親しみ、読まれる広報にと願っているものであります。

清野喜一さん（沢海）

遠藤辰男さん（二本木）

村民の各層に読まれる広報を

「広報よこごし」二〇〇号達成おめでとうございます。

広報の記事内容が、行政上固い感じになることはやむを得ないことと思いますが、もっと趣味やレクリエーション的情報も多く取り入れ、住民各層に楽しく読まれる広報にして行ってほしいと思います。

また、村や各団体などが行う催し物などに、より多くの方が参加できるよう、事前に詳しい内容を載せた情報があってほしいです。

全部とじて取ってあります

村民の心と心がかよい合うために、広報は重要な役割を果たしていると思います。

家庭に居ながらにして、村の動きや出来事がつたわってくるので、毎月広報の配布を心持ちにしています。端から端まで読んで、全部とじて取ってあります。

なかでも、その道一筋に自らの情熱を燃やし努力されている方々の記事には感動しています。